

平成24年度宇都宮市学習と生活についてのアンケート（宇都宮市立清原北小学校2年）

■分析と今後の指導上の工夫

- 学校以外での1日の学習時間や「新しくなったことは、繰り返し練習している。」についての肯定割合が多いことから、家庭での学習習慣がついてきたと思われる。引き続き、復習の大切さなどを理解させるとともに家庭学習の内容についてもふり返らせ、個に応じた適切な助言をしていく。
- 「普段から、不思議だなと思うことがある。」についての肯定割合が38.1%と低くなっている。朝の会や帰りの会などを利用し、2年生の発達段階に応じたニュースを紹介したり、毎週、図書室で借りている本の内容を広めたりし、児童が興味や関心を広めることができるよう支援していく。また、学習においては、受動的な学習ではなく、課題解決的な学習を多くし、自分たちで解決することの楽しさを味わわせていく。
- あいさつや言葉遣いに気をつけて生活している児童が多い。また、多くの児童が命の大切さ、思いやりの心、きまりや時間を守ることの大切さなどについて理解している。それに比べ、「困っている友だちに自分から進んで手助けができる。」について肯定的に答えた児童が減っているため、今後は、正しいと思うことを進んで実践できる正義感や勇氣、思いやりの心を育てていきたい。具体的には、道徳の時間や学級活動に時間などを活用し、心を育むとともにソーシャルスキルトレーニングなども取り入れ、実践力をつけていく。
- 「自分の携帯電話を持っている。」についての肯定割合は23.8%と市の肯定割合を上回っている。ただ、「携帯電話を使う時のルールを家の人と決めている。」についての肯定割合は100%であるため、引き続き、携帯電話を使用する際に気をつけることやルールを守ることの大切さなどについて話し合うとともに、保護者の方にもフィルタリングの大切さなどを啓発していきたい。
- 「休み時間や放課後、休日の日などに、自分から進んで運動をするようにしている。」についての肯定割合は71.4%と市の肯定割合を下回っている。体育の時間において体を動かすことの楽しさを味わわせるとともに、業間、昼休み、朝の登校後の時間などに外に出て体を動かす機会を作っていくようにする。また、各種検定の際に、それぞれの体力に合った目標をきちんとたせ、意欲を高めさせる。
- 健康や食事については、比較的良好な結果と言えるが、「好き嫌いをしないで食べている。」についての肯定割合は、76.2%である。給食の際に、苦手なものも少しは食べるように声かけをしているが、継続的に指導をしていくとともに、家庭への協力を呼びかけていく。